

Longman Advanced American Dictionary 改訂第2版の語法・文法コラムについて

藤本 和子

1 *Longman Advanced American Dictionary*(以下LAADとする)は、初版が2000年に出版され、それから7年を経て2007年に第2版が出版された。Longman社(ピアソン・エデュケーション社)のウェブサイトによると、LAAD初版は“the first truly corpus-based dictionary of American English at the advanced level”とある。LAADはthe Longman Corpus Networkを用い、そのうち、話し言葉を集めたthe Longman Spoken American Corpus、書き言葉を集めたthe Longman Written American Corpus、そして世界中の英語学習者が用いた英語からなる学習者コーパスであるthe Longman Learners' Corpusなどのデータに基づいて編纂されている。

両版のカバーの記述によると、初版では総収録語84,000語、第2版では185,000語で2倍以上になっている。初版では新語としてdot-com, E. coli, HOV lane, HTMLなどや、百科辞典的なものとして、Benjamin Franklin, Rosa Parks, Mount Rushmoreなどが掲載されている。第2版では、学習者が様々な科目を英語で学ぶ時に役立つような語や、科学技術の発展や、世界の新たな出来事や流行を反映する語など6,000の新しい語や意味がつけ加えられている。例えば、absolute value, avian flu, blog, iPod, Sudoku, text messageなどである。両版共に定義は、利用者が理解しやすいように、基本語2,000語のthe Longman American Defining Vocabularyを用いてなされている。複数の語義をもつ語には、すばやく検索できる

よう、語義を簡潔に説明した“Signpost”（案内標識）がつけられている。話し言葉と書き言葉において、最も使用頻度の高い3,000語には、それぞれにおける頻度が数字で表わされている。例えばS1は話し言葉において最も頻度の高い1,000語に入り、W2は書き言葉で最も頻度の高い2,000語に入ることを表わす。第2版では使用頻度の高い3,000語が赤字で示されるようになるなど、学習者への細やかな配慮が伺える。第2版でとり入れられたその他の特徴として、**analyze**や**concept**などの語に**Ac**という“Academic Word”を意味するラベルがつけられた。これは学習者が学問的英語を読み書きする上で重要な語であることを意味する。さらに、**happy**や**meat**などの語に語源情報が掲載された。これは、語源を知ることが学習者の語彙習得に役立つとの考えからであろうか。例えば、*meat*の語源は“food”であるという情報から、欧米の食文化や歴史を垣間見ることもでき、学習者には役に立つであろう。さらに、第2版では、写真や絵にも差し替えや、追加が見られる。つまり、**Earnest Hemingway**のエントリーなどのいくつかの歴史上の人物の写真などを除いて、初版の白黒のものが第2版でカラーのものに差し替えられたり、新たに**ecosystem**や**nitrogen cycle**などに見られるように、専門的な語やコンセプトを説明するフルカラーの絵が追加されるなど、視覚的にも、より内容が分かりやすくなっている。さらに第2版では、コラムの一層の充実が見られる。初版のコラム**USAGE NOTE**は、第2版では、**USAGE**、**GRAMMAR**、**WORD CHOICE**の3つのタイプに分けられた。さらに、第2版では、コラム**THESAURUS**が新たに設けられている。初版の**USAGE NOTE**の項目で**THESAURUS**に吸収されたものもある。初版でもすでに、コラム**USAGE NOTE**の中で、項目によっては**GRAMMAR**、**WORD CHOICE**などのようにサブタイトルがつけられているものもあるが、第2版で改めて整理されたと言えよう。**WORD CHOICE**や**THESAURUS**のコラムは、類義語の違いをつかむのに非常に役立つと言える。**USAGE**や**GRAMMAR**のコラムでは、間違いやすい語法・文法、綴り、礼儀、語の丁寧さなどについて有益な説明がなされている。大まかに言えば、初版のコラム**USAGE NOTE**の項目は、第2版では、綴り、礼儀、語の丁寧さなどに関する項目は**USAGE**のコラムに、より純然たる文法に関するものが**GRAMMAR**に分類されているようであるが、2つのタイプの境界線は必ずし

も明確とは言えない。

LAAD 第2版が出版された年と同じ2007年に *Collins COBUILD Advanced Dictionary of American English* (以下 *CollinsAE*) も出版された。これはCollins COBUILD が出版する初めてのアメリカ英語辞典であり、Thomson ELT と共同出版された。*CollinsAE* は、the Collins Word Web の一部である the Bank of English™ のデータに基づく。*CollinsAE* と、その1年前の2006年に出版された *Collins COBUILD Advanced Learner's English Dictionary* (第5版) を比較して、まずその違いに気づくのは、*CollinsAE* におけるコラムの充実ぶりである。6つのタイプのコラム **Picture Dictionary**, **Word Web**, **Word Link**, **Word Partnership**, **Thesaurus**, **Usage** があり、これらは学習者の語彙習得、流暢さ、コミュニケーションの正確さを高めることを目的としている。**Usage** のコラムでは、語の意味ニュアンスの違い、文法、文化などに関する注記がなされている。

本稿では、特に、LAAD 初版の **USAGE NOTE** と第2版の **USAGE** と **GRAMMAR** のコラムに注目し、現代アメリカ英語の語法・文法上の変化や諸相を探ってみよう。またLAADと同年に出版されたアメリカ英語辞典 *CollinsAE* の主に **Usage** に関するコラムや、*Longman Dictionary of Contemporary English*⁴, *Cambridge Grammar of English*, *Collins COBUILD English Usage*², *Garner's Modern American Usage*, *Practical English Usage*³ の記述と比較してみよう。本稿では以下、これらの辞典、語法書は *LDOCE*⁴, *CGE*, *CCEU*², *GMAU*, *PEU*³ と表記する。コラムの項目名は、第2版においてそのコラムのある見出し語に一致させる。< >内の記述及び、下線は筆者によるものである。辞典、語法書の引用は項目によっては抜粋のみであるものもある。

2 LAADの初版と第2版の両方にある項目のうち、記述に変化があるものについていくつか検討してみよう。2.1と2.2の**USAGE**と**GRAMMAR**の分類は第2版の分類にしたがう。

2.1 USAGEについてのもの：

(1) **he**¹ <人を受ける代名詞 *he* の用法>

LAAD¹ **He** can be used to mean either a man or a woman when the sex of the person in the sentence is not known or does not matter, for example in the sentence *Each person should do what he thinks is best*. Some people, however, do not like using **he** in this way because it seems unfair to women, and they prefer to use **he or she** or, in writing only, **s/he**: *Each person should do what he or she thinks is best*. | *Each person should do what s/he thinks is best*.

LAAD² 第2版では、初版の記述中の下線部 *Some* が *Many* に変わっている。

初版、第2版共に上記の記述に、さらに “Many people use **they** instead of **he**, especially in speech and less formal writing . . .” などの記述が続いている。この用法は多くの辞典でも取り上げられている。第2版で *Many* となったのは、*each person* などを受ける代名詞に *he* を用いる人がしだいに減っている社会の動きを記述に反映させたものと言えよう。

(2) **kindly**¹ <*kindly* を “please” の意味で用いる用法>

LAAD¹ A request like **would you kindly...?** or **kindly shut the door!** is formal and polite as well as somewhat old-fashioned.

LAAD² 初版下線部 “somewhat old-fashioned” が第2版では “old-fashioned” となっている。

CCEU²にはこの用法を “a rather old-fashioned use” とする記述が見られる。

CCEU² [**kindly**] Some people use **kindly** when they are asking someone to do something in an annoyed way. This is a rather old-fashioned use.

Kindly stand back a minute, please. (下線は原文のもの)

GMAUには *kindly* の用法について次のような記述がある。

GMAU [kindly, adv.] This word is now frequently misplaced in sentences. Traditionally, it has meant something close to *please*, as in *Kindly take your seats* (= please take your seats). This usage has long been more common in BrE than in AmE. Perhaps that is why Americans have begun to misplace it, by having it refer not to the person who is requested to do something but to the person doing the requesting—e.g.: “We *kindly* ask you to take your seats.”

GMAUによると、*kindly* を “please” の意味で用いるのは、アメリカ英語よりもイギリス英語で長く用いられている用法であり、さらに、アメリカ英語ではこの用法に関して “We *kindly* ask you to take your seats.” のように、依頼する人とされる人の置き間違いが起きていることが分かる。

2.2 GRAMMAR についてのもの：

(1) **amount**¹ < *amount* を数えられる名詞と用いる用法 >

LAAD¹ **Amount** is usually used with uncountable nouns, and some people think this is the only correct use: *a large amount of money/food/ electricity/hard work* (Note that you do not usually say a **high** or **big** amount). With plural countable nouns it is best to use **number**: *a large number of mistakes/people*. However, people often use **amount** with plural countable nouns when what they are talking about is thought of as a group: *We didn't expect such a large amount of people.* | *an enormous amount of problems*

LAAD² 第2版では、上記初版の下線部「話題になっているものが一つのグルー

プとみなされる場合に、**amount**を数えられる名詞の複数形と用いることがしばしばある」という旨の記述と例文が削除された。

ただし、*LAAD*²の**amount**¹のエントリー中に、*The system can handle large amounts of data.*という**amount**と共に複数形の名詞**data**が用いられている例文が新たに入れられた。*LAAD*²の**data**のエントリーには**data**は‘plural’とされているが*vast amounts of statistical data*という初版にはなかった例が掲載されている。尤も、現代英語では**data**は単数形としても用いられうるので、*LAAD*²にも**data**に関する注記もあってよいのかもしれない。

*Amount*を数えられる名詞の複数形と用いる用法について、他の辞典、語法書の記述を見てみよう。

*CollinsAE*では、**amount**と**number**についての用法の違いについてのコラムがあるが、*amount*を数えられる名詞の複数形と用いる用法に関する記述はない。

CollinsAE [amount and number] *Number* is used to talk about how many there are of something: *Madhu was surprised at the large number of students in the class.* *Amount* is used to talk about how much there is of something: *There is only a small amount of water in the glass.*

*GMAU*では、*amount*は数えられない名詞と共に、*number*は数えられる名詞と共に用いられる主旨の記述があり、さらに次のような記述がなされている。

GMAU [amount; number] . . . writers frequently bungle the distinction— e.g.: “The *amount* [read *number*] of ex-players who talked shows that the authors did their homework.” John Maher, “If Notre Dame Has to Cheat, Who Can Win Fairly?” *Austin Am.-Statesman*, 20 Sept. 1993, at D1, D9.

作家がしばしば間違えて *amount* を数えられる名詞の複数形と共に用いるということである。

CCEU²でも **amount** の項目で、*amount* の後ろに数えられる名詞の複数形を用いないよう次のように注意を促している。

CCEU² **[amount]** You do not talk about an ‘amount’ of things or people. For example, you do not say ‘~~There was an amount of chairs in the room~~’. You say ‘There **were a number** of chairs in the room’.

PEU³には、*amount* は通例、数えられない名詞と共に用いるという記述がある。

PEU³ **[333.4]** *A great deal of* and *a large amount of* are generally used with uncountable nouns.

ただし、CGEにはくだけた話し言葉や書き言葉で *amount* と数えられる名詞の複数形が用いられることがあるという記述がある。

CGE **[182b]** In general, constructions with *amount of* are restricted to use with non-count nouns:

We still have a huge amount of work to do.

However, in more informal spoken and written contexts, *amount of* may occur with plural count nouns:

For the cost, the machine seems very good value, especially with the amount of accessories supplied.

CGEのように、くだけた用法では *amount* が数えられる名詞の複数形と用いられうるといふ記述もあるが、通例、この用法は容認されないため、LAAD¹ の上記下線部の記述はあえて第2版では残されず、削除されたのかもしれない。

(2) **January** < *January* を副詞的に用いる用法 >

LAAD¹ When you use a month without a date, say “in January,” “in February,” etc. If you use it with a date, write “on January 9” or “on January 9th,” “on February 22” or “on February 22nd” etc., but always say “on January ninth,” “on February twenty-second” etc. The preposition “on” does not always have to be included before the month.

LAAD² 第2版では初版の上記下線部が削除された。

初版、第2版共に **January** のエントリー中には *We leave **January 1st** and return **January 29th**.* のように前置詞 *on* のつかない例も掲載されている。

CollinsAE は **January** にコラムはない。ちなみに同辞典の **on** のエントリーでは *This year’s event will take place on June 19th, a week earlier than usual.* のように *on* がついている例文が掲載されており、この *on* の省略に関する記述はない。

LDOCE⁴ の **January** のエントリーには、アメリカ英語では *on* をつけないことがあることが分かる次のような記述がある。

LDOCE⁴ **on 6th January** *BrE: He took office on 6th January 1999. | January 6 AmE: The package arrived January 6.*

CCEU² にはアメリカ語法において、*PEU³* ではくだけた文体で *on* が省略されることがあるという記述がある。

CCEU² [**Days and dates 11**] Note that American speakers sometimes omit ‘on’ with days and dates.
Can you come Tuesday? (下線は原文のもの)

PEU³ [82.3] In an informal style we sometimes leave out *on*.
*I'm seeing her **Sunday morning**.*

(3) **kind¹** < *these/those kind/sort of* の用法 >

LAAD¹ **Kind of** and **sort of** are regularly used in the singular before singular and uncountable nouns: *one kind of flower/person/bread*. The plural forms **kinds of/sorts of** are used before plural nouns in more informal English: *these kinds of flowers/programs/people* (but NOT *this kind/sort of programs*, though you can more formally say *programs of this kind/sort*). Remember that whether **kind** or **sort** itself is singular or plural also relates to the word used just before: *this/one/each/every kind of... | another kind of soft drink | these/ten/many/all/a few kinds of... | in other kinds of schools | toys of all sorts*. In informal speech, people do say things like: *Those kind/sort of questions are very difficult*, but some people think this is incorrect.

LAAD² 第2版では初版の上記下線部が削除されるなどの記述の変化がある。

These/those kind/sort of のように *these/those* と *kind/sort* を一緒に用いる用法について、*LDOCE⁴*, *GMAU*, *CCEU²*, *PEU³* の記述を見てみよう。

LDOCE⁴ では、*these/those* の後ろでは *kinds/sorts* のように複数形を用いなければならないとある。

LDOCE⁴ [type¹ コラム **WORD CHOICE**] **Type, kind, and sort** are countable nouns, and they must be plural after determiners with plural meanings these/those types/kinds/sorts of + plural/singular noun

GMAUには次のようにある。

GMAU [these kind of; these type of; these sort of] These are illogical forms that, in a bolder day, would have been termed illiteracies. Today they merely brand the speaker or writer as slovenly. They appear most commonly in reported speech, but sometimes not Of course, it's perfectly acceptable to write *these kinds* or *these types* or *these sorts*, as many writers conscientiously do

以前は*these*の後ろに*kind*のような単数形を用いることは間違いであるとみなされたであろうが、今日では以前に比べると容認度に関する見解も緩やかになっているものの、やはり、*these*の後ろには*kinds*のように複数形を用いることが正しい用法であることは間違いのないということが分かる。

CCEU²とPEU³の記述からは、*these/those*と*kind/sort*を一緒に用いるこの用法は話し言葉やくだけた用法などには見うけられるが、通例“incorrect”とみなされることが分かる。

CCEU² In conversation, **these and those** are often used with **kind**. For example, people say ‘I don’t like these kind of films’ or ‘I don’t like those kind of films’. This use is generally thought to be incorrect, and it is best to avoid it. Instead you should say ‘I don’t like **this kind of film**’ or ‘I don’t like **that kind of film**’.

PEU³ [551.2] Plural demonstratives (*these and those*) can also be used.

These sort of cars are enormously expensive to run.

Do you smoke those kind of cigarettes?

This structure is often felt to be incorrect, and is usually avoided in a formal style. This can be done by using a singular noun . . . by using plural *sorts/kinds/types*

2.3 このように、第2版改訂で、コラム **USAGE**, **GRAMMAR** の記述は、言葉の変化を反映すべく変更されたり、容認性をめぐって見解が分かれるものや、くだけた用法に関するものの中には削除されたものもあると言えよう。

3 次に *LAAD*¹ と *LAAD*² で記述に変化はないが、他の辞典や語法書との間で記述の異なるものについて、ここでは **there**¹ を取り上げてみよう。

短縮形 *there's* を複数形の名詞の前に用いる用法について、*LAAD* 両版には、「くだけた話し言葉では、多くの人が *there's* を複数形の名詞の前に用いる」とある。

*LAAD*¹, *LAAD*² [**there**¹] In informal spoken English, many people use **there's** before a plural noun: *There's two cookies left in the package.* This should not be used in formal writing. (初版と第2版で若干記述に差異があるが、内容に影響を与えるものではないので、第2版のもので代表する。)

*LDOCE*⁴ の **there**¹ の **GRAMMAR** のコラムには、*there is* を複数形の名詞の前に用いることは不可とする次の記述があるが、同じ Longman 社の辞典だが、短縮形 *there's* の場合の記述はない。

*LDOCE*⁴ When the following noun is plural, use **there are/were**: *There are a lot of problems (NOT there is a lot of problems) with this theory.*

GMAU には次のようにある。

GMAU [**there is; there are**] The number of the verb is controlled by whether the subject that follows the inverted verb is singular or plural. Mistakes are common—e.g.:

- “He said *there is* [read *are*] several truckloads of nuclear waste.”
Frank Munger, “State Bans DOE Nuke Waste,” *Knoxville News-*

Sentinel, 18 Apr. 1996, at A1.

Especially when followed by a negative, *there* has in many minds come to represent a single situation. It therefore often appears, though wrongly, with a singular verb—e.g.: “‘There *wasn’t* [read *weren’t*] any other witnesses.’” Rebecca Thatcher, “Girl’s Report of Abduction, Sexual Assault Investigated,” *Austin Am.-Statesman*, 9 Dec. 1994, at B1. The person who says “there wasn’t . . . [plural]” here would never say “they was.”

GMAU も *there is* を複数形の名詞の前に用いる用法を誤りとみなしているが、*there’s* の場合に関する記述はない。特に、*there* の後ろに否定語がくると単数形の動詞が複数形の名詞の前でもしばしば用いられるとあるが、やはり、間違いであるとしている。

CCEU²には、LAAD¹、LAAD²のように、*there’s* を複数形の名詞の前に用いる用法についての記述があり、この用法は “generally regarded as incorrect” とある。

CCEU² [there] In conversation, some people use **there’s** in front of a plural noun group. For example, they say ‘If it’s foggy, **there’s** more collisions.’ This use is generally regarded as incorrect.

PEU³やCGEにも、くだけた話し言葉や文体では、*there’s* が複数形の名詞と共に用いられるとする記述が見られる。

PEU³ [532.4] In an informal style, *here’s*, *there’s* and *where’s* are common with plural nouns.

There’s some children at the door.

CGE [45a] . . . *there’s*, when indicating or pointing to something, is also used with plural noun phrase subjects in informal contexts:

There you are. There’s your pills.

4 その他, LAADのコラム中の, 例文の差し替えや, 記述の追加・削除などについて気づいたことを述べてみよう.

4.1 初版と第2版でコラム中の例文が差し替えられたものもある. 例えば, **cord**では, 初版の *Have you seen the black cord for the VCR?* は, 第2版では *the black cord that goes to the DVD player* となっている. また, **foreigner**では, 初版で用いられた *More Americans and Europeans have visited Nagano since the Olympics.* の代わりに *Many Norwegians emigrated to the United States around that time.* が掲載されている. 前者では, ビデオデッキからDVDプレーヤーという語に代えられ, 後者では, 長野オリンピック開催からもうしばらく時が経っていることから, 例文そのものが差し替えられており, 時代の流れにあわせて, 改訂において例文もアップデートされていることが分かる.

4.2 第2版で削除された記述もある. 例えば **marry**では初版にあった “*You marry someone or get/are married to someone, not with them. But you can be married with four children.*” の記述は削除された. *Marry*と共に用いられる前置詞については日本の英語教育でも繰り返し指導される事項である. これは「…と結婚する」のように日本語の「…と」につられて *to*ではなく *with*を用いてしまう学習者が多いことも理由であろう. この部分は第2版でも残されていれば, 日本人英語学習者には役に立ったであろう.

削除と追加の両方がなされたものもある. 例えば **regret**¹での記述を見てみよう.

LAAD¹ ... *I regret telling her about my affair.* This means *I'm sorry I told her about my affair.* You regret something (NOT “regret about/for sth”).

LAAD² ... *I regret telling her about my problems.* This means *I'm sorry I told her about my problems, and I wish I hadn't.*

*Regret*の後ろの動詞の形についてであるが、第2版で*regret + -ing form of a verb*の意味の説明が詳しくなっているのは学習者の理解にいつそう役立つであろう。逆に初版の記述のうち、*regret*が後ろに*about/for sth*をとらないという上記下線部の記述は削除された。¹⁾

5 アメリカ英語辞典である*LAAD*²と*CollinsAE*の両方に、**USAGE**あるいは**GRAMMAR**とタイトルのつけられたコラムがある項目について、ここではまず、両辞典共に取り上げている内容をいくつか紹介しよう。両辞典で注記がある内容は、やはり英語学習や英語運用において重要であるとみなされているものだからである。次に、同じ語についてのコラムでありながら、両辞典の間で、その語について説明内容の異なるものもいくつかここで挙げてみよう。

5.1 *LAAD*²と*CollinsAE*の両方にあり、内容もほぼ同じもの：

(1) **help**¹ <動詞*help*がとる構造>

*LAAD*² **Help** can be followed by a verb in the *to* form or the basic form

CollinsAE After *help*, you can use the infinitive with or without *to*

(2) **lately** <*lately*, *recently*と時制>

*LAAD*² Use both these words with the present perfect tenses to talk about something that began in the recent past and continues until now: *Lately I've been thinking about changing jobs.* | *You've been going to a lot of parties recently.* You can also use **recently** (but NOT *lately*) with the past tense to talk about a particular action in the recent past: *She got married recently* (NOT *lately*).

CollinsAE [エントリー-**recently**] *Recently* and *lately* can both be used to express that something began in the past and continues into the present:

Recently/Lately I've been considering going back to school to get a master's degree. Recently, but not lately, is also used to describe a completed action: I recently graduated from high school.

両辞典の記述と例文から, *lately*と*recently*は現在完了時制と共に用いられ, *recently*はまた, 過去時制とも用いられることが分かる. これら2つの副詞と時制の問題に関しては, ふだん大学生の書く文章でもエラーがよく見うけられるので, 両辞典の記述は学習者にとって有益と思われる.²⁾

5.2 LAAD²とCollinsAEの両方にあるが, 説明内容の異なるもの:

(1) become

LAAD² **Become** is never followed by an infinitive with “to,” though **come** can be followed by an infinitive with “to”: *After a while, I came to like Chicago (NOT ...became to like...).*

CollinsAE **Become** is a linking verb and may be followed by a noun: *I'd like to become a teacher.* or by an adjective: *In the summer the weather becomes hot.*

両辞典ともに *become* のとる構造についての注記であるが, LAAD² が *become* は *come* と異なり, 後ろに *to* 不定詞をとらないことに注意を促す記述であるのに対して, CollinsAE の注記は, *become* が後ろに名詞あるいは形容詞をとるという連結動詞の用法に関するものである.

(2) during

LAAD² **During** is never used in a clause instead of **while**: *While I was at home, I saw Jerri.* You can say: *During my time at home...* but NOT *During I was at home...* Also, you can say: *I did the dishes while*

you were asleep (NOT during you were asleep).

CollinsAE *During and for are often confused. During answers the question “When?”: Bats hibernate during the winter. For answers the question “How long?”: Carla talks on the phone to her boyfriend for an hour every night.*

LAAD²は前置詞*during*と接続詞*while*の区別に関する注記であり、CollinsAEは*during*と*for*の表わす時の違いについての注記である。どちらの用法もやはり、大学生の書く英語などによく目にするエラーであり、学習者にとって役に立つと言えるだろう。

6 「言葉は社会の鏡である」ということを英語の変化から感じる。英語の変化の中には、一般にイギリス英語がアメリカ英語をとり入れていくという明らかな動きがある。この先、両者がどのように変化していくのか興味深く、言葉の変化の一つとして観察していきたいと思う。

世界経済の著しい発展に伴い、ますます英語が世界中で使用されるようになり、同時に、アメリカの経済力が世界中で使用される英語に影響を及ぼすことは想像に難くない。このような世界の変化の中でアメリカ英語辞典はまさに時代が必要とする辞典であるだろう。グローバル社会の中でLAADなどのアメリカ英語辞典が果たす役割は今後ますます大きくなるかもしれない。近い将来、Websterなどの本来アメリカで創立された出版社から、LAADやCollinsAEに匹敵する学習者向けの辞典が見られるとすれば、どのような現代アメリカ英語の諸相が見られるのか、これもまた興味深いことだろう。

Notes

- 1) 第2版で記述が修正, 改善されたものもある。 **Unique**と**which**を見てみよう。

unique

LAAD¹ Although you will often hear people say that someone or something is *very unique, more unique, the most unique* etc. to mean that it is special or unusual . . .

LAAD² 第2版では, 初版の上記下線部の *it is* は *they are, or it is*, に修正された。

初版の記述の主語と動詞の不一致に関するエラーが第2版では修正された。

which

LAAD¹ In relative clauses that add information but do not restrict the meaning of what comes before the clause, you usually use **which**, especially after a comma : *Dave's always really rude, which is why people tend to avoid him.*

LAAD² 第2版では, 初版の上記下線部は *use **which*** となっている。

- 2) その他, **only** について, **LAAD¹**, **LAAD²** のコラムの記述内容と, **CollinsAE** のタイトルつきのコラムではなく **only** のエントリー中の注記であるが, 比較してみると興味深い。

only¹

LAAD¹, **LAAD²** The meaning of a sentence can change depending on where you use **only**. To make the meaning of your sentence clear, it is best to put **only** directly before the word it describes: *Only Paul saw the lion* (=no one except Paul saw it). | *Paul only saw the lion* (=he saw it, but he did not do anything else to it, such as touch it). | *Paul saw only the lion* (=the lion was the only animal he saw).

CollinsAE [①**only**] In written English, **only** is usually placed immediately before the word it qualifies. In spoken English, however, you can use stress to indicate what **only** qualifies, so its position is not so important.

副詞の位置に関する問題であるが, **CollinsAE** では, 書き言葉と話し言葉それぞれにおける *only* の位置に関する記述がなされている。

References

- Carter, R. and M. McCarthy. 2006. *Cambridge Grammar of English*. Cambridge: Cambridge University Press. (CGE)
- Garner, Bryan A. 2003. *Garner's Modern American Usage*. New York: Oxford University Press. (GMAU)
- Sinclair, J. (ed.) 2004. *Collins COBUILD English Usage*. 2nd ed. Glasgow: HarperCollins Publishers. (CCEU²)
- Swan, M. 2005. *Practical English Usage*. 3rd ed. Oxford: Oxford University Press. (PEU³)

Longman Dictionaries. 2007. Pearson Education Limited. October 23, 2007.

<<http://www.pearsonlongman.com/dictionaries>>.

Collins. 2004. HarperCollins Publishers. October 28, 2007. <<http://www.collins.co.uk>>.

Dictionaries

Collins COBUILD Advanced Dictionary of American English. 2007. Glasgow: HarperCollins Publishers. (*CollinsAE*)

Collins COBUILD Advanced Learner's English Dictionary. 5th ed. 2006. Glasgow: HarperCollins Publishers. (*CALED*⁵)

Longman Advanced American Dictionary. 2000. Harlow: Pearson Education Limited. (*LAAD*¹)

Longman Advanced American Dictionary. 2nd ed. 2007. Harlow: Pearson Education Limited. (*LAAD*²)

Longman Dictionary of Contemporary English. 4th ed. 2003. Harlow: Pearson Education Limited. (*LDOCE*⁴)